

22.褥瘡発生率

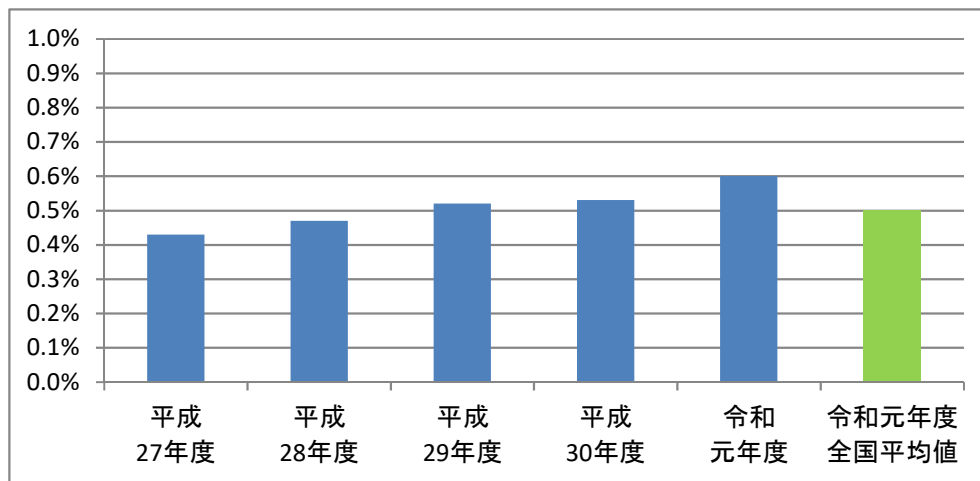
項目の解説

入院後の褥瘡(床ずれ)は患者の生活に大きな悪影響を与えます。また、時として褥瘡の治療は困難で、入院の長期化につながります。褥瘡は適切な診療やケアにより予防可能性を高めることができます。当該指標は予防への取り組みとその効果を示す指標です。

当院では、褥瘡予防ケア向上のために看護師のクリニカルラダー別教育や、褥瘡ケア院内認定看護師の育成、体圧分散マットレスの十分な配置の取り組みを行っています。近年褥瘡発生率が上昇しているのは、クリティカルケア領域において循環動態が不安定な重症者、長時間の高度手術を要する患者、難治疾患を有する高齢者での発生が増加していること、そして様々な医療機器によるMDRPU報告数が増加していることが原因と考えられます。今後更なる確かな褥瘡予防対策を提供できるよう努めてまいります。

当院の実績

平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和元年度 全国平均値
0.43%	0.47%	0.52%	0.53%	0.60%	0.50%



全国平均値は国立大学附属病院の平均値です。

定義

1年あたりの褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡を作った患者数の比率(%))です。

